

議会広報広聴特別委員会次第

日時 令和4年7月12日（火）

午後1時30分開議

場所 第3・4委員会室

1 開会

2 議題

(1) 市議会だより第180号校正会議について

(2) 議会報告会の見直しについて

(3) その他

ア 次回以降の委員会開催日程の確認について

イ その他

3 閉会

議会報告会の見直しについて【6月1日の委員会が出た意見】

1. テーマ設定

- 無理にテーマを設定するのは難しい。
- 学校間格差の課題がでて、結果として、小学校にエアコン導入することが要望としてあがっただけ。
- 委員会によって、テーマを設定しやすいのが、総務と教育福祉、逆にテーマを設定しにくいのが都市建設と市民経済で、予算と決算にテーマが決まってしまう。
- テーマの設定や結論は一本化しない方がよい。
- テーマの設定がまず重要である。
- 多様性を反映できるように努力する。

2. まとめ方

- 一致点を無理やり導き出そうとしない方がよい。
- 議会報告会で、これがまとめという形でまとまる必要性はない。
- 個人の政策判断に委ねる、そうしないと個人の政策への介入となってしまう危険性がある。

3. 班構成

- 委員会で班構成を固定すると、地域課題がでたときに、当該地域の議員がいないこともある。
- 地域別の班構成もよい。それも固定化すると柔軟な対応できない。
- 都度、柔軟な班構成にしていく工夫が必要。
- 地域課題にテーマを絞って、委員会単位で班構成すると地域課題に対応しきれない、ということがある。

4. 周知

- どんな街づくりをのぞみますか、という問いかけ方式の方が興味を引きやすいから、周知の切り口も大切。
- 市民層が変わってきているから、SNS の活用も重要である。どういう層にアピールすればよいか検討の必要もある。
- ワークショップ方式の場合、事前告知も必要ではないか。従来型の説明と質問や意見といった報告会と思って参加する人もいるので。

5. 手法のこと

- ワークショップ方式で意見を聴くのも有効。
- 意見交換会にしてはどうか。発表形式で、自らの意見をおさえて言わない議員もいる、自分の意見を言える土壌が必要だから。
- 報告会はタウンミーティングとは異なる。
- 即答して、できる、できない、判断する必要はない。その切り口として、ワークショップは有効。
- ワークショップ以外にもいろいろな手法を検討してみるとよい。

6. 回数との関連

- 回数で解決できることではない。
- 十分な準備と時間が必要である。

7. 報告会が果たす役割

- 報告会ですべての市民要望を吸い上げるのは無理があり、そもそもの目的ではない。報告会は、出先機関と考え、議会本体につなげるきっかけに過ぎない。
- 報告会、個人や会派の活動、総力戦で、議会に関心をもってもらおう。従って、重い内容や課題を報告会に押し付けない。
- 報告会に来た人は、報告会が全てと感じる。全体をみていないのに、議会はこうである、と報告会イコール議会の全てと勘違いされないようにする。

- 出席した人が満足して、帰ることが重要。

8. 作業の負荷

- 全員が協力できる仕組みを作る。
- 議員で、作業をやる人とやらない人の差がありすぎる。
- 負荷を公平にすべきである。